

2025 グループ汐朗読講習会

海野十三（うんのじゅうざ）という作家をご存じですか。昭和レトロブームの中で、近年ふたたび注目されている、科学者、推理作家、SF作家、科学解説者です。日本SF小説の父と言われ、数多くの作品を残しています。今年のグループ汐朗読講習会では、そんな彼の掌編を取り上げます。科学知識を応用した奇想天外な発想を、朗読で伝えるには？体を使って対象を意識する、前田綾子先生の指導がさく裂します。

日時： 2025年10月13日（月）スポーツの日
10:00～15:00

会場： 佐保会大阪支部事務所 長堀ルーム
大阪市中央区南船場1丁目4-16 アツミビル6階

講師： 前田綾子先生

定員： 20～25名（先着順）

テキスト：「透明猫」（初出『少年読物』保育社1948）
「科学者と夜店商人」（初出『科学画報』誠文堂新光社1929）

費用： 2500円（テキスト代込み）

半日参加もできます。その場合は**1500円**。

テキストは、可能な限り事前に受講希望者にお届けいたします。

申込： 佐保会大阪支部HPからお申し込みください。

日本SFの父とも呼ばれる海野十三（1897～1949）は戦前から戦後にかけて数々の空想科学小説を書き、絶大な人気を博しました。手塚治虫や小松左京ら後にSF第一世代となる作家たちは、子ども時代はみな海野の愛読者でした。真空管の開発に携わる科学技術者だった海野は1928年、「電気風呂の怪死事件」でデビュー。異色の探偵作家として知られるようになります。以後、少年向けの科学冒険小説ジャンルを開拓しつつ、ロボットやロケット、人工臓器、地球外生命、宇宙戦争、タイムトラベルなど多様なテーマを豊かな想像力と科学者としての知見に基づくリアルな筆致で描き出していました。（世田谷文学館開館30周年記念 海野十三と日本SF展より）



（左）最新刊 2025年5月25日発行
春陽文庫探偵小説編「地球盗難」の
表紙。帯に筒井康隆の賛がある。

（右）世田谷文学館30周年記念
「海野十三と日本SF」展
2025.4.26(土)～9.28(日)ポスター

